

教員名	戸谷 陽子 (TOTANI Yoko)
所 属	文教育学部言語文化学科英語圏・欧州言語文化講座
学 位	文学修士 M.F.A (芸術学修士)
職 名	助教授
URL / E-mail	totani@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

アメリカ演劇 / 舞台芸術 / 文化政策 / パフォーマンス研究 / 表象文化論

◆主要業績

総数 (2) 件

- ・「アメリカ演劇と〈女性〉という問題—主体の獲得・断片化・逸脱の歴史」
『劇場文化総特集〈アメリカ演劇〉—歴史と現在』(静岡芸術文化センター)、第9巻、2006年、122-134頁
- ・「フォルネス作品の源流—1960～70年代ニューヨークのオルタナティブな上演空間とフォルネス」
『アメリカ演劇』(全国アメリカ演劇研究者会議研究誌)、第18号、2006年、3-23頁

◆研究内容

1. 昨年に引き続き、科学研究費助成により「二十世紀以降アメリカ舞台芸術の理論と実践における文化ポリティクスとグローバル化」の研究を行い、グローバル化が文化にもたらす影響について、主に演劇にみられる異文化受容という点から調査・研究を進めた。
2. 前年の全国アメリカ演劇研究者会議全国大会のシンポジウムにおける発表を「フォルネス作品の源流—1960～70年代ニューヨークのオルタナティブな上演空間とフォルネス」という論文にまとめ発表した。また、アメリカ現代演劇における女性の問題を系譜的にたどった論文「アメリカ演劇と〈女性〉という問題—主体の獲得・断片化・逸脱の歴史」を発表した。
3. さらに本学 COE ジェンダー研究のフロンティア学内研究協力者として、プロジェクト D の研究活動に参加し、多くの研究者と専門分野を超えて学際的な交流をはかった。

◆教育内容

1. 学部教育：全学部対象コア科目英語、英語圏言語文化コース学生対象の専門科目（英語圏テキスト講読、英米文学演習）を担当、パワーポイントなどを使用して視聴覚教材を作成し、立体的な授業を心がけている。このほか卒論指導として4名の学部学生の個人指導を担当。
2. 大学院教育：アメリカ演劇関連の科目（米文学演習）を担当、また修士論文の個人指導を担当。
3. その他、語学センター委員として、全学部の英語科目のオリエンテーション、クラス編成、とくに履修相談・指導に膨大な時間と労力をかけている。また語学センター主催「イングリッシュキャンプ」に引率として参加。
4. 言語文化学科英語圏言語文化コース2年生担任として、コースの教務連絡、留学生の履修や学生生活に関する相談・指導。

◆Research Pursuits

Topics of research conducted and titles of published papers are:

1 . Politics of Culture and Globalization: Theory and Practice of American Performing Arts Since the 20th Century.

(Grant-in-Aid for Scientific Research)

2 . Maria Irene Fornes and the Alternative Performance Space Downtown New York City during the 1960s and 1970s

3 . American Theatre and the Problematics of "Women" and "Subjectivity": History of Reacquisition, Fragmentation, and Aberration

◆Educational Pursuits

Conducted lectures and classes in the 05-06 academic year include:

1. Basic and Intermediate English I & II for freshmen and sophomores

2. Introduction to American Theatre (a lecture course for freshmen)

3. English and American Literature Seminars for undergraduate English major students

4. Seminars for graduate students to study American theatre and its theory

In addition to teaching, the following contributions were made:

1. Supervising B.A. and M.A. theses.

2. Consulting and advising undergraduate students taking Core Curriculum English classes.

3. Assisting the native speakers to carry out English Camp held by the Foreign Language Center.

4. Supervising sophomore English major students as their homeroom teacher.

◆共同研究可能テーマ

- ・文化芸術助成財団・研究機関等と舞台芸術と文化政策の実践的共同研究
- ・各国演劇研究者等と舞台芸術の国際コラボレーションに関する実践的共同研究

◆将来の研究計画・研究の展望

本年度が最終年度となる4年間の科学研究費の助成による研究「二十世紀アメリカ舞台芸術の理論と実践における文化ポリティクスとグローバル化」を発展させ、2007年度より、新たに科学研究費の助成により「アメリカ演劇の理論と実践におけるリベラリズムと民主主義の問題：冷戦以降の再検討」と題する4年間の研究を開始する。

グローバル化の進む表象文化空間における表象のポリティクスを主に舞台芸術を対象に行う。

◆受験生等へのメッセージ

今日 IT 化、グローバル化の時代にあって、知や情報を手にすることは容易に可能になりました。したがって、大学でそれ自体を学ぶことは、以前と比べるとさして重要な価値ではなくなったといえるかもしれません。みなさんには、インターネットで検索して得られる知や情報ではなく、知の集積する大学という空間で、それをいかに有効に活用するか、そしていかに発信するか、実際の技術的な訓練はもちろん、そのための深い思考力と想像力を鍛錬してほしいと願っています。グローバル化の時代、さまざまな立場や価値観が拮抗する社会にあって、わたくしたちが知識や情報のみでは解決できない複雑な問題に直面する時に、この思考力と想像力が、そしてそれを備えたみなさんのような人材が必要とされていると思うからです。